## 線形代数学・同演習 В

1 月 17 日分 演習問題\*<sup>1</sup>

1. (1) 
$$\frac{1}{\sqrt{13}} \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 2 & -3 \end{pmatrix}$$
 (2)  $\frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix}$  (3)  $\frac{1}{\sqrt{10}} \begin{pmatrix} 3 & -1 \\ 1 & 3 \end{pmatrix}$  (4)  $\frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 1 & -2 \end{pmatrix}$ 

$$2.^{\dagger} \quad (3) \ \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} -\sqrt{3} & 1 & \sqrt{2} \\ 0 & 2 & -\sqrt{2} \\ \sqrt{3} & 1 & \sqrt{2} \end{pmatrix} (4) \ \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{pmatrix} 2 & 0 & -1 \\ 0 & \sqrt{5} & 0 \\ 1 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

3.† (1) 
$$u_1(x) = \sqrt{\frac{3}{2}}, u_2(x) = \sqrt{\frac{5}{2}}x, u_3(x) = \frac{1}{2}\sqrt{\frac{7}{2}}(5x^2 - 3)$$

(2) 
$$u_1(x) = \sqrt{\frac{7}{2}}x^2$$
,  $u_2(x) = \sqrt{\frac{5}{2}}x$ ,  $u_3(x) = \frac{1}{2}\sqrt{\frac{3}{2}}(-7x^2 + 5)$ 

(3) 
$$u_1(x) = -\sqrt{\frac{5}{2}}x$$
,  $u_2(x) = -\sqrt{\frac{7}{2}}x^2$ ,  $u_3(x) = \frac{1}{2}\sqrt{\frac{3}{2}}(7x^2 - 5)$ 

- 4.  $m{u}_1=({a\over b}), \ m{u}_2=({c\over d})$  とおく、まず  $\|m{u}_1\|^2=a^2+b^2=1$  なので  $a=\cos\theta, \ b=\sin\theta$  とおく、ここで  $(m{u}_1|m{u}_2)=0$ ,つまりベクトル  $m{u}_1$  と  $m{u}_2$  は直交しているので, $m{u}_2$  は  $\left({0\over 1}\,{-1\over 0}\right)m{u}_1=\left({-\sin\theta\over\cos\theta}\right)$  と平行である.そこで  $m{u}_2=\alpha\left({-\sin\theta\over\cos\theta}\right)$  とおけば  $\|m{u}_2\|=1$  より  $\alpha=\pm1$  となるので結論を得る.
- 5.  $P=(\pmb{p}_1,\pmb{p}_2)$  が直交行列であることと  $[\pmb{p}_1,\pmb{p}_2]$  が正規直交基底であることが同値であること, および先の問題より  $\mathbb{R}^2$  の正規直交基底が全て求まっていることより,

$$\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}, \quad \begin{pmatrix} \cos \theta & \sin \theta \\ \sin \theta & -\cos \theta \end{pmatrix}.$$

6.†  $A=(m{a}_1,m{a}_2,m{a}_3)$  とし, $m{a}_1,m{a}_2,m{a}_3$  に対して Gram-Schmidt の直交化法を適用する.そうして得られた  $m{u}_i$  は, $m{a}_1,m{a}_2,m{a}_3$  を用いて

$$u_1 = \lambda_1 a_1$$
,  $u_2 = \lambda_2 a_2 - \alpha a_1$ ,  $u_3 = \lambda_3 a_3 - \beta a_2 - \gamma a_1$ 

のように書ける. ただし  $\lambda_i$  や  $\alpha,\beta,\gamma$  は  $a_1,a_2,a_3$  の内積などを用いて書ける量である (正確に書くと読みづらいのでこのように書いた). すると,

$$[\boldsymbol{u}_1, \boldsymbol{u}_2, \boldsymbol{u}_3] = [\boldsymbol{a}_1, \boldsymbol{a}_2, \boldsymbol{a}_3] \begin{pmatrix} \lambda_1 & -\alpha & -\gamma \\ 0 & \lambda_2 & -\beta \\ 0 & 0 & \lambda_3 \end{pmatrix}$$

と書けるが, $P=(\boldsymbol{u}_1,\boldsymbol{u}_2,\boldsymbol{u}_3)$  は直交行列であり, $U^{-1}=\begin{pmatrix} \lambda_1&-\alpha&-\gamma\\0&\lambda_2&-\beta\\0&0&\lambda_3 \end{pmatrix}$  は上三角行列であるので,A=PU のように表すことができる.

- 7.\* (1) $H_0(x)=1$ ,  $H_1(x)=2x$ ,  $H_2(x)=4x^2-2$ ,  $H_3(x)=8x^3-12x$ ,  $H_4(x)=16x^4-48+12$ . (2) $\frac{d^n}{dx^n}e^{-x^2}=p_n(x)e^{-x^2}$ ( $p_n(x)$  は n 次の多項式)となることを示せばよい.これは帰納法で簡単に示すことができるので略.
  - (3) 例題 10.3 とほぼ同様に示すことができる.

<sup>\*1</sup> 凡例:無印は基本問題 , † は特に解いてほしい問題 , \* は応用問題 .

## (4) 被積分関数が

$$H_n H_m e^{-x^2} = (-1)^n \left(\frac{d^n}{dx^n} e^{-x^2}\right) H_m(x)$$

のように書けることに注意.簡単のため  $n \geq m$  と仮定する.部分積分を繰り返し行うことにより,

$$(-1)^n \int_{-\infty}^{\infty} \left( \frac{d^n}{dx^n} e^{-x^2} \right) H_m(x) \, dx = (-1)^{n+1} \int_{-\infty}^{\infty} \left( \frac{d^{n-1}}{dx^{n-1}} e^{-x^2} \right) H_m^{(1)}(x) \, dx$$
$$= \dots = (-1)^{n+m} \int_{-\infty}^{\infty} \left( \frac{d^{n-m}}{dx^{n-m}} e^{-x^2} \right) H_m^{(m)}(x) \, dx$$

を得る.これより n>m ならば 0 となることが分かる.つまり,この内積に関して多項式 $H_n(x)$   $(n=0,1,2,\dots)$  は互いに直交している.因みに n=m とすれば  $2^n(n!)\sqrt{\pi}$  となる.8.\* (1) ${}^tE_n=E_n$  より明らか.(2) $P,Q\in O(n)$  とすれば  ${}^tPP=E_n,{}^tQQ=E_n$ .すると ${}^t(PQ)PQ={}^tQ^tPPQ={}^tQQ=E_n$  なので  $PQ\in O(n)$ .(3) $({}^tP)^{-1}={}^t(P^{-1})$  であることを用いる. ${}^tPP=E_n$  より  $E_n={}^t(P^{-1})P^{-1}$  なので  $P^{-1}\in O(n)$ .